



6月



# 十人十色

2020, 5, 29  
縄瀬 保育園  
山元 紀代美  
NO3

(みんなちがってみんないい!)

## \*「あなたは、大好きなんだけど、今は、〇〇さんがいい!」

年長のKくん。朝から少しご機嫌斜め。母親が言って聞かせても、納得できずグズグズ言いながらの登園でした。今年4月に来た新人保育士のMが話を聞いていました。Mは新卒で20代。元気で優しく子ども達に大人気です。優しく話を聞くMに、Kくん、本当に申し訳なさそうに

「あなたは、大好きだけど、Sさんがいいの!」と言ったそうです。SはKくんの担任3年目のベテランです。自分の調子が悪かったり、気持ちが沈んだりした時に、誰に寄り添ってもらって、やるせない気持ちを満たしてほしいのか?その気持ちをしっかり言葉で表現できたことに職員で喜び合いました。(Kくんの本当にすまなさそうな表情に笑ってしまいましたが…)

保育園の目標に、「愛着関係を育てる!」とあります。乳児の時から「担当制」を行い、担任との愛着形成(信頼関係を)重要視してきました。担任は保育園でのお母さんの存在で、育児のすべてを担います。担任はいつも「ここにいるからね!存分に遊んでおいで!困ったら戻って来てね!」というスタンスです。こういった担当制を未満児から経験してきたKくん。自分を受け止めてくれる人(受け止めてほしい人)をしっかり肌で感じたんだと思います。担任のSに気持ちを満たしてもらって、いつもの笑顔が戻りました。

Mも苦笑いでしたが、この出来事を振り返り、「子どもに寄り添う」という意味を深く考えてほしいと願う園長です。

## \*けんか

仲良く遊んでいたと思うと、けんかになったりして、子どもの世界もとてもめまぐるしいです。年齢でもけんかのやり方が違います。

3歳児のけんかは、動物的です。おもちゃを取った、取られた。順番を守らなかった、1番になれなかった。そして手や足、口までも出てきます。後は大泣き!理由を聞いても「相手が悪い!」の一点張り。

4歳児のけんかは、少し仲間意識が出てきて「仲間じゃないから!」と言いながら仲間外れにしたり、「もう!あそばんから!」と憎まれ口を言いながらその場を離れて行ったり。小さな群れができるので気の合う子と一緒にいることが多くなります。ここで、自分が悪かったのではないか?という意識も出てきますが、素直に謝ることが出来ない子も多いです。

5歳児は、ルールや約束を守らなかった時に、けんかが始まります。子ども達の言い分もしっかりしてきているので、話をよく聞き慎重に対応していかないと間違った結果になってしまいます。

けんかが始まるたびに、保育士はそばに行って、様子をうかがいます。すぐには止めません。泣いていてもじっと様子をうかがって全体を把握します。少し気分が収まってからじっくりと話を聞きます。少し昔は、保育士は裁判官みたいに「〇〇ちゃんが、かんだからいかんがねえ」「手を出した方が負け!」「ごめんなさいは!」という言葉が横行していました。これでは、子どもの気持ちは全く満たされません。今は、相手の気持ちを代弁しながら、自分たちで考える時間を持たせるような指導をしています。これは本当に小さい時から、繰り返し繰り返し、どの職員も同じやり方で・・・

そうして、最近気が付くと「先生に言ってくる!」と言いつけに来る子がいなくなりました。また、3歳児のけんかを仲裁している4歳児がいます。「どうしたの?」と言いながら話を聞く姿は、保育士の姿と重なります。こういった丁寧な対応を繰り返しながら、相手の気持ちをくみ取り、自分の意見をはっきり言えて、最終的には、社会に対応できるコニュにケーション能力を身に付けてほしいと思います。